



◇ 今回は、卒業生の平井佑弥さん（名古屋大学経済学部卒）の報告です。

今回は、卒業生の平井佑弥さんの登場です。

在学中は生徒会役員として学校行事やボランティアに尽力。卒業後は名古屋大学経済学部に進学し、卒業論文優秀賞を受賞するほど研究に打ち込みました。現在は大手機械メーカーに勤務しています。

はじめに

関高生の皆さんは「大学生」と聞くと、どんなイメージを抱くでしょうか。もしかすると、「志望大学への進学」に意識を集中するあまり、せっかく合格して晴れて大学生となっても、「大学生活で何を成し遂げるか」をイメージできていない方もいるかもしれません。

もちろん、中間・期末テストや模擬試験に備えて日々勉学に励むことは非常に大切です。一方で、大学に合格した瞬間から皆さんは次の目標を見つける必要があることも心にとめておいてください。私自身、志望大学への進学を目標に3年間がむしゃらに頑張った反動か、大学生活の最初は、いわゆる燃えつき症候群のような日々を送っていました。思い返すと、そこから後述する様々な経験を積むまでなるまで、自身の大学での目標が明確でなかったからかもしれないと感じています。

関高生の皆さんの貴重な時間をいただき恐縮ですが、本報告を通じて、皆さんが晴れて大学生のご自身の姿を想像して少しでもモチベーションの維持・向上に繋がったら幸いです。また、日々励んでいる大学受験の中でも一歩立ち止まって、大学入学後から皆さんが何をなし得たいか、あるいは大学で何を目標とするかをご自身に問いかける機会となりましたら嬉しく思います。



国際交流

私の大学生時代の目標の一つは知見・視野を広げることでした。そこで国際交流を通じて文字通り多様な価値観に触れ、知見・視野を広げようと考えました。国際交流というと、海外への留学や旅行、ボランティアなどがまず思いつくかもしれません。私も語学学校や海外旅行などを通じ、国際交流を体験していきました。（写真1：語学学校での様子）

ただ、これらの経験は一時的には得るものは多くありましたが、同時にもっと長期での交流も深めていきたいと思うようになりました。そこで思いついたのが「24時間国際交流ができる場所に住む」ということです。つまり、私が海外に行っていたように、海外からも日本へ留学を目的として長期滞在する学生がいるはずなので、そこへ飛び込もうと考えたのです。



ありがたいことに、大学から遠くない所に私が考えていたような学生寮を見つけ、日本人チューター¹として、2年間過ごすことになりました。そこでは当初の思惑通り、絶えず英語・中国語

¹ チューター：生活や学業で困った人を支援する役割のこと

その他様々な言語が交わる異様な場所で、日々異なる価値観や考え方に触れることができた非常に貴重な経験でした。(写真2：学生寮での様子)

学業

私が選択した経済学部は、多くの大学が有する学問の一つではありますが、その内容は多岐に渡ります。中でも私は、企業の経営戦略に興味を持ち、同分野のゼミナールに所属していました。経営戦略と、「企業が成長する(利益を出し続ける)ための作戦」のことを指します。ゼミナールでは、企業が株主や投資家に向けて公表する財務情報(売上高や営業利益など)や、非財務情報(事業内容・経営計画など)を基に、その業界²や企業がどんな経営戦略をとっているのかを分析していました。卒業論文の作成の際も、企業の経営戦略をテーマに、約半年間分析に没頭していました。その努力が奏功したのか、非常にありがたいことに、当論文をもってその年の優秀賞を獲得することができました。(写真3：卒業論文の表彰の様子)



文系学部は、理系のようにいわゆる研究室が与えられ、実験を繰り返すという作業はありません。したがって、卒業論文のテーマは比較的自由に設定しやすく、論文の内容も過度に難しくする必要はありません。しかしながら、大学4年間で学んだすべてを注げる絶好の機会ですので、厳しい大学受験を乗り越える力のある関高生の皆さんには、自身の能力を試す場として活用してほしいと思います。

高校の友人

高校を卒業しても、いえ、卒業したからこそ高校時代の友は一生の友となります。大学に進学してからも彼らとの交流は続き、1年に一度以上集まっては、懐かしい話にひたっていました。(写真4：高校時代の友人との旅行の様子) 当然ですが、進学先が異なれば生活する地域も離れ、今以上に会う頻度は少なくなってしまうと思います。しかしながら、3年もの間共に切磋琢磨しあった関係は、クラス・学級の概念がない大学ではなかなか形成できないものだと痛感しています。

大学での新たな交友関係を構築することはもちろん、ぜひこれまで同じ時間を共有した仲間と一層の楽しい時間を過ごしてほしいと思います。



² 業界：製造業・建設業・サービス業など同じ産業でまとめた分類のこと

さいごに

これまで、いくつかのパートに分け、自身の学生生活をご紹介してきましたが、大学生活は人によって実に様々です。友人の中には1年かけて日本中を旅したり、趣味が高じて会社を興したりするなど、高校までとは異なる世界観を持つ人たちと出会うことができる貴重な環境です。その中で、皆さんがどのような学生生活を送る場合でも、その生活をより豊かに、かつ実りのあるものにするために、せん越ながら自身の経験で特に役立った思考法をご紹介したいと思います。

－なぜを繰り返す

小学校～高校と大学で大きく異なるのは、「自由」を手にするということです。大学での講義（＝授業）を選ぶ自由、アルバイトをする・しない自由、住む場所も選ぶことができるかもしれません。つまり、高校卒業後は皆さん自身が選択する場面が非常に多くなるということです。ただし、この「自由」を手にする代わりにもう一つ、「責任」も問われる立場となることを心にとめておいてください。どんな選択をすることも自由ですが、必ずそれらを選択した理由を他者から問われることとなります。したがって、なぜその選択をしたのか、あるいはなぜその選択をしなかったのか、のように自身の選択に常に問いかける習慣を身に付け、選択した理由・経緯を明確にすることを心がけてください。そしてその選択には必ず責任が伴うことを忘れないようにしてください。

最後に、関高生皆さんの今励んでいる努力が結実し、素晴らしい結果が待っていることを心より願っております。